



核医学検査装置
核医学検査は、多くの病気の診断に利用されています。

市民と市長を結ぶコラム 市長室から

こんにちは

市ホームページ「市長の部屋」へどうぞ。 <http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>

市民に信頼される病院を目指して 市立市民病院

こんにちは。市長の中尾友昭です。昨年4月1日に、「地方独立行政法人下関市立市民病院」としてスタートした市民病院。法人化してもうすぐ1年が経ちますが、よく「市民病院はサービスが良くなつたね」「職員の笑顔が増えたね」との評判を聞きます。私も定期的に市民病院で健診を受け、安心して公務に励むことができています。

市民病院では、さらに安心の優しい医療を提供するために、医療機器を更新しました。新しくなった二つの装置について、簡単に紹介します。

●核医学検査装置

核医学検査は、「アイソトープ検査（RI検査）」とも呼ばれ、脳・心臓・骨・腫瘍などの診断に欠かせない検査法であり、適切な治療方針の決定や、治療後の経過を観察するために必要とされています。新しい機能もたくさん搭載され、これまでの検査項目に加え、脳血流検査では、認知症診断の早期発見と診断が可能となりました。心臓検査では、血流異常だけでなくポンプ機能としての心臓の働きを

解析することができ、1度の検査で多くの情報を得ることができます。さらに、高画質となり、検査時間も短縮され、患者の負担も軽減されます。市民病院の核医学検査室では、質の高い検査を安心して受けることができます。

●血管造影装置

この装置は、心臓や脳などの血管の病気、血管が関係する病気の診断・治療に用いられます。いろいろな機能が搭載され、頭部から足先までの血管を検査することが可能で、細かな対象を鮮明に観察でき、正確な診断ができます。

血管造影スタッフも充実し、医師、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師で構成された「頼れるチーム医療」が実践されています。市民病院は、医療の質や、患者サービスをより一層向上させ、市民の皆さんに必要な医療を継続的に提供できるよう、より効率的・効果的な病院経営を行います。これからも市立病院として「安心の優しい医療を提供し市民に信頼される病院」を目指し、努力していくことを望んでいます。

しものせきナビ vol.31

年表を歩く

大洋捕鯨捕鯨開始 (1936年)

日本では、古来から行われている捕鯨。特に山口県は近代捕鯨発祥の地で、下関市は南氷洋（南極海）捕鯨の拠点地として、捕鯨船の建造や鯨肉の加工などが行われてきました。1936（昭和11）年に、大洋捕鯨（株）の捕鯨船が南氷洋へ出航。1934年の日本捕鯨（株）に次いで南氷洋で捕鯨を行いました。大洋捕鯨は、近代式（フルウェー式）捕鯨を取り入れた初めての進出で、シロナガスクジラ807頭、ナガスジラ279頭、ザトウクジラ30頭など豊漁で大成功でした。



日和山公園の一角にたたずむ顕彰碑

フルウェー式捕鯨は、汽船に大砲を設置し、弾丸の代わりにロープの付いたもりをクジラに打ち込みます。山田桃作氏と岡十郎氏によって立ち上げられた日本遠洋漁業（株）が日本で初めて導入しました。この方法で日本の近代捕鯨は大きく発展し、現在も採用されています。2人の業績をたたえて、顕彰碑が日和山公園（丸山町）に建てられています。きっと公園からくじらのまち下関を見守っていることでしょう。

●下関市年表販売中！
販売価格 3,000円
問広報広聴課（☎23129051）

